

平成30年第4回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成30年 9月 3日 (開会)

平成30年 9月13日 (閉会)

○議長（小林信） 次に7番、武石辰久君の発言を許します。7番、武石辰久君。

（7番 武石辰久議員 一般質問席登壇）

○7番（武石辰久） 前の方々と関連する面もあるわけですが、通告しております村の後継者である若者の雇用と支援について質問いたします。

本村の超少子高齢化を乗り越えるために、若者への雇用の場の確保と支援体制を、今後、どのように具体的に実行していくのか、村長に伺います。

平成27年度の3月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「人口ビジョン」を作成いたしました。また、今年度、平成30年度の村長の施政方針では、重点課題施策として雇用の拡大を掲げております。

村が存続していくためには若い人がいなければなりません。そして、仕事がないと成り立ちません。計画は立てましたが、企業誘致や地場産業の取り組みなど、成果や実績はどうなっておりますか。また、今後、どう取り組んでいくのか、答弁をお願いします。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 通告のありました後継者である若者の雇用と支援についてというふうなことであります。

施政方針の中でも3つの大きな柱として雇用の拡大ということで予算計上もさせていただきましたし、事業実施もさせていただいております。

その中で、とりあえず制度を設けております部分につきましてご説明を申し上げます。

まず1つは、支援体制としましては上小阿仁村工場誘致条例によりまして、投資固定資産総額800万円以上に対して固定資産税相当額を奨励金とする工場誘致奨励金や、新しく設けました従業員1人につき年額20万円以内、そして村内居住の従業員にあつては年額30万円以内を奨励金とする雇用促進奨励金を制度化して対応させていただいております。

また、仕事の応援の施策の中では、野外生産試作センターで研修をしながら就農を目指す農業後継者育成技術習得研修事業、また特産品の開発、販路拡大等に補助する個人事業者支援事業、就労に有利な資格取得に助成する資格取得支援事業等を新たに設けまして対応をさせていただいているということになります。

若者には子育て応援で支援をしていきたいということで、例えば、子宝祝金制度、保育料の半額助成、そして今年度からは給食費の半額助成、小学生の通学バス定期券の全額補助、等々で対応させていただいていると。また、4月から運用開始をしましたコアニティーにおきましては、若者の仕事を応援できるようにということで、事務所や営業所として使えるレンタルオフィスの2部屋を準備して、併せてアパートも併設をさせていただきました。

制度や施設の活用を促進して、雇用の場の確保及び支援に努めてまいりたいと考えておるところでありますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 今までの村の制度は分かります。それで、今回、集住型宿泊交流拠点施設コアニティーに、雇用の場に結びつく企業支援のレンタルルーム、先ほど村長も言いましたが、2 部屋を設置しましたが、その利用と取り組み状況を教えていただきたいと思ひます。

実績が未だないとすれば、今後、更に成果を挙げるために、どう取り組んでいくのか、答弁をお願いします。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） コアニティーに係るレンタルルームにつきましては、募集をかけながら申し込みを待っている状況にあります。

これにつきましては、木造の2階建というふうなことがありまして、木材、山林を活用しながらの対応ということも含めて、そういう意味では、チップボイラーの導入も含めて、色んな形で対応が出来るような複合的な、総合的なものとして考えております。少なくとも上小阿仁村につきましては、光ファイバーが全世帯に完備をさせていただいておりますので、どこでも対応が出来るという状況の中で、公共施設については、Wi-Fi の設備等々をさせていただいて対応している状況にあります。

それプラス上小阿仁村で、どのような事業が対応出来るのかというふうなことで、施策の中でも少し触れさせていただいておりますけれども、村に豊富にあるものを活用しながら事業を展開出来ないでしょうかということ、その部分についてPRをしているところであります。

誘致等々、若しくは、村に来ていただける方々につきましては、前の議員からの質問にもあったとおり、色んな形で村の支援内容をPRしながら、個々に対応をさせていただくということで考えておりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7 番（武石辰久） 村のシンボルとしてのコアニティー、そして企業支援を行う部屋をせつかく作ったわけですので、是非、それを活かせるように強力な体制をお願いしたいと思ひます。

7月現在、秋田県の有効求人倍率は、全体で1.63倍、高卒で2.37倍と徐々に伸びてきております。また、Aターン登録者数や県内への移住者数も増えてきております。移住者が目標を大きく上回っている要因は、相談体制の整備であるということであります。

このような中山間地志向を含む好条件の情勢を捉え、さらに生活支援や子ども支援等を徹底し、村に住んでいただき、村内外の仕事場に通勤する形を進めていかなければならないと思いますが、村長が、これを捉えた考えはどうでしょうか。

また、雇用の拡大の実行にあたっては、支援制度の啓蒙や移住・定住促進、就労支援や国、県、ハローワーク等関係機関とのネットワークづくりを、今後推進していくために、県内でも成果が出ている相談窓口や相談受入体制づくりの強化が必要であると思いますが、村長はどう考えますか。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 移住定住の進んでいる地域について、いろんな情報が入ってまいります。やはり、今言われたとおり相談体制の充実した地域については、本当に定住率がいい、移住率がいいというふうに聞いております。

ただそれだけなのかはちょっと別として、いずれその相談体制が、いわゆる窓口、入口の部分としては重要な部分を占めていると思っておりますので、この部分については、村としても色んな形で対応していかないと遅れをとってしまうのではないかと考えております。

そういう意味ではコアニティーの中にもお試し住宅ができる居住施設を、いわゆる2部屋で1部屋にするとかの対応で、お試し住宅が可能なものも対応できるようにしてあります。そして、最近、特に公営住宅には、村外の方々が、村外の方の若い人が入って来ていただけるようになりましたので、村の公営住宅の安さと、それから村から通勤できる立地条件が少し功を奏しているのではないかと、というふうなこと、それから、遅ればせながらある程度、村の子育て支援等の内容が少し知れ渡ってきたのではないかなというふうには思っているわけですが、やはり、まだまだ足りないと思っておりますので、ハローワーク、県とのネットワークも含めて、村の相談体制の充実を、これから、やはり推進していかなければならないと思っております。

ここの部分について、今後も一生懸命検討し、進めるようにしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） 昨年も関連の一般質問をしておりますけれども、進展が見られておりませんので、今、村長の答弁にあったとおり、早急に取り組んでいただきたいと思っております。

村長は、山が動けば人が動けば、経済が動けば雇用が生まれると、常々言ってきました。

この夏、甲子園、秋田県代表で私達に感動を与えた金足農業高校の選手のチームワークに学び、皆の力を結集すれば、重い宝の山は、必ず動くと思っております。

しかし、山を動かす前に「心」を動かしてください。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（小林信） 以上もって、武石辰久君の一般質問を終了いたします。